

第二級海上特殊無線技士試験問題

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入（マーク）すること。

法規 12問 } 24問 1時間
無線工学 12問 }

法

規

〔1〕 次の記述は、電波法に規定する「無線局」の定義である。 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「無線局とは、無線設備及び の総体をいう。ただし、受信のみを目的とするものを含まない。」

1. 無線設備の操作を行う者
2. 無線設備の管理を行う者
3. 無線設備の操作の監督を行う者
4. 無線従事者

〔2〕 単一チャネルのアナログ信号で振幅変調した両側波帯の電話の電波の型式を表示する記号は、次のどれか。

1. J 3 E
2. F 3 F
3. A 3 F
4. A 3 E

〔3〕 第二級海上特殊無線技士の資格を有する者が、空中線電力50ワット以下の船舶局の無線電話で国内通信のための通信操作を行うことができるのは、何キロヘルツ以上の周波数の電波を使用するものか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 20,000キロヘルツ
2. 25,010キロヘルツ
3. 30,000キロヘルツ
4. 35,010キロヘルツ

〔4〕 免許人が電波法、放送法若しくはこれらの法律に基づく命令又はこれらに基づく処分に違反したとき、電波法の規定により、総務大臣が当該無線局に対して行うことがある処分を次のうちから選べ。

1. 期間を定めた電波の型式の制限
2. 再免許の拒否
3. 期間を定めた空中線電力の制限
4. 期間を定めた通信の相手方又は通信事項の制限

〔5〕 総務大臣が無線局に対して臨時に電波の発射の停止を命じることができる場合は、次のどれか。

1. 免許状に記載された空中線電力の範囲を超えて無線局を運用していると認めるとき。
2. 運用の停止の命令を受けている無線局を運用していると認めるとき。
3. 無線局の発射する電波が他の無線局の通信に混信を与えていると認めるとき。
4. 無線局の発射する電波の質が総務省令で定めるものに適合していないと認めるとき。

〔6〕 船舶局の免許状は、掲示を困難とする場合を除き、どこに掲げておかなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 受信装置のある場所の見やすい箇所
2. 通信室内の見やすい箇所
3. 送信装置のある場所の適当な箇所
4. 船内の適当な箇所

第二級海上特殊無線技士試験問題

法

〔7〕 次の記述は、秘密の保護に関する電波法の規定である。□内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその□を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」

1. 情報
2. 通信事項
3. 相手方及び記録
4. 存在若しくは内容

〔8〕 電波法の規定により無線局になるべく擬似空中線回路を使用しなければならないのは、次のどの場合か。

1. 工事設計書に記載された空中線を使用できないとき。
2. 他の無線局の通信に混信を与えるおそれがあるとき。
3. 無線設備の機器の取替え又は増設の際に運用するとき。
4. 無線設備の機器の試験又は調整を行うために運用するとき。

〔9〕 船舶局の無線電話による遭難呼出しは、どの事項を順次送信して行うか、正しいものを次のうちから選べ。

- | | |
|----------------------|----|
| 1. (1) メーデー (又は「遭難」) | 2回 |
| (2) こちらは | 1回 |
| (3) 遭難船舶局の呼出名称 | 2回 |
| 2. (1) メーデー (又は「遭難」) | 3回 |
| (2) 遭難通信幸領局の呼出名称 | 3回 |
| (3) こちらは | 1回 |
| (4) 遭難船舶局の呼出名称 | 1回 |
| 3. (1) メーデー (又は「遭難」) | 3回 |
| (2) こちらは | 1回 |
| (3) 遭難船舶局の呼出名称 | 3回 |
| 4. (1) メーデー (又は「遭難」) | 3回 |
| (2) こちらは | 1回 |
| (3) 遭難船舶局の呼出名称 | 1回 |

規

〔10〕 緊急通信は、どの場合に行うことができるか、電波法の規定に照らし正しいものを次のうちから選べ。

1. 船舶又は航空機が重大かつ急迫の危険に陥るおそれがある場合
2. 地震、台風、洪水、津波、雪害、火災等が発生した場合
3. 船舶又は航空機の航行に対する重大な危険を予防するために必要な通信
4. 船舶又は航空機が重大かつ急迫の危険に陥った場合

〔11〕 無線電話通信において、応答に際して直ちに通報を受信しようとするとき、応答事項の次に送信する略語は、次のどれか。

1. 送信してください
2. どうぞ
3. 了解
4. OK

〔12〕 無線局が相手局を呼び出そうとするときは、遭難通信等を行う場合を除き、一定の周波数によって聴守し、他の通信に混信を与えないことを確かめなければならないが、この場合において聴守しなければならない周波数は、次のどれか。

1. 自局の発射しようとする電波の周波数その他必要と認める周波数
2. 自局に指定されているすべての周波数
3. 他の既に行われている通信に使用されている周波数であって、最も感度の良いもの
4. 自局の付近にある無線局において使用する電波の周波数